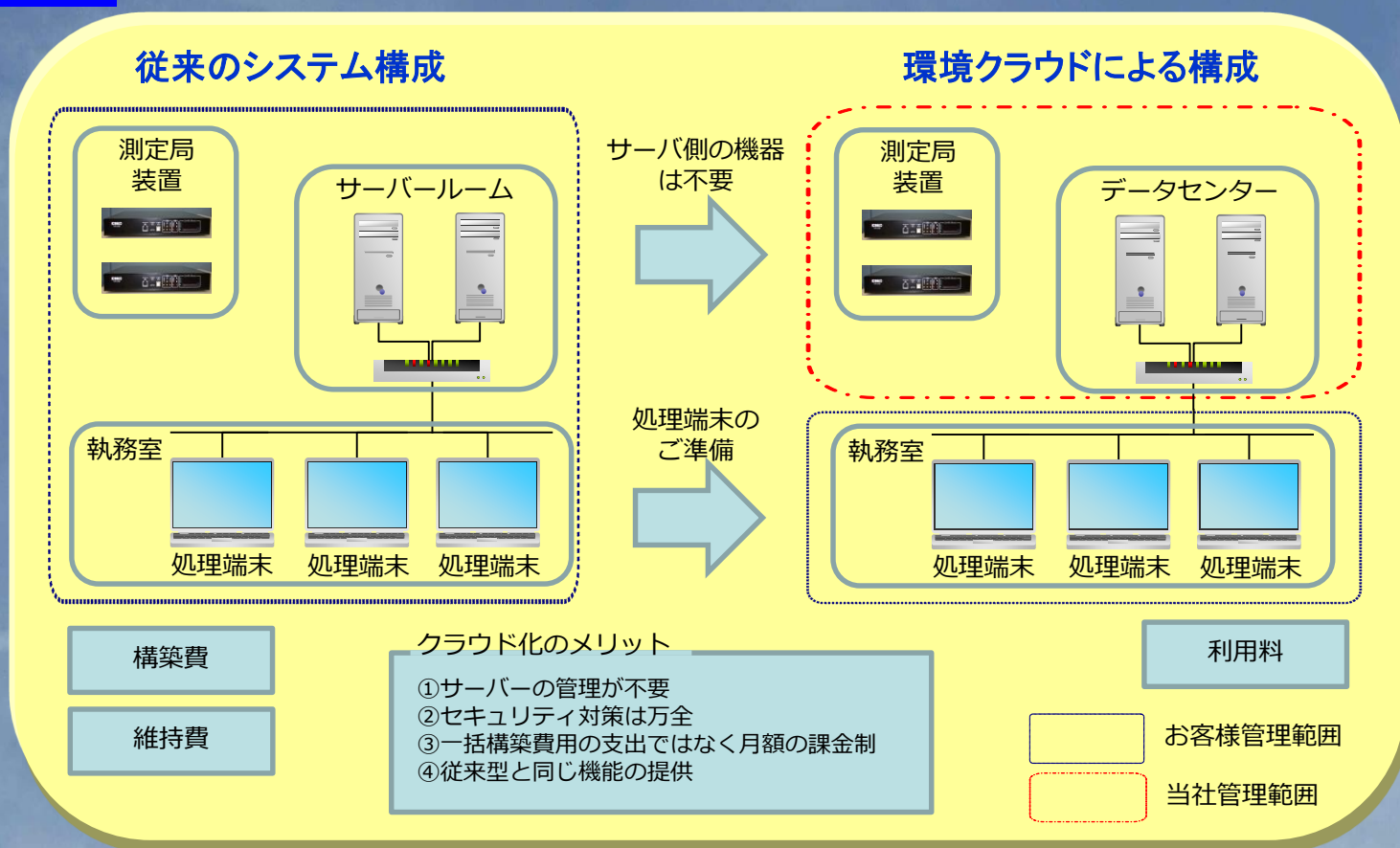


クラウド型大気汚染常時監視システム

構築業務の簡略化、コスト圧縮、納期短縮、即時性向上を実現！

大気汚染常時監視システムは「大気汚染防止法」に基づき環境省が策定した「環境大気常時監視マニュアル」を前提に構築されています。当社では、マニュアルが定める基本機能にプラスして自治体環境局様が実施する日常業務をサポートする機能を付加した大気汚染常時監視システムをクラウド型で提供します。

クラウド型大気汚染常時監視システム



当社の『クラウド型大気汚染常時監視システム』の特徴

- 1 クラウドに対する不安の解消**
 大気汚染常時監視システムはこれまでクラウドサービスの実績がなく、セキュリティ・運用面で不安との意見もありましたが、導入実績、取り組みを説明させていただいた上で、具体的なサービス内容・価格ご提示させていただくことで安心いただき採用していただいています。
- 2 住民への情報提供も標準機能で実現**
 従来システムでは個別機能としていた住民へ情報提供機能についてもホームページ作成機能を追加することで対応しました。標準レイアウトを使用していただきましたが、導入自治体様からもカスタマイズなしでも十分であるとの評価をいただいております。
- 3 自治体職員のハードウェア運用手間の削減**
 従来システムでは、データを収集する子局装置、データを蓄積するサーバ、監視業務に必要な機能を持つアプリケーションサーバ等のハードウェアの管理がお客様にて必要でした。クラウドサービスでは日常業務で使用しているパソコンやプリンタのみで利用が可能となります。
- 4 低価格・短納期で導入可能**
 パッケージ機能をカスタマイズなしで導入することで、3か月での導入を実現、従来型での導入費と比較しても5年間利用で約50%の低価格化を実現します。
 ※価格比はお客様のシステム規模、構成で異なります。

